

『つくりだす喜び』を味わわせる図画工作科の指導の在り方

静岡市教育センター 長期研修員
静岡市立西奈小学校 石井 康義

研究の要旨

本研究は、図画工作科の授業を通して、子どもたちに「つくりだす喜び」を味わわせるための指導の在り方について探るものである。「つくりだす喜び」を味わうとは、「表したいものを、表したいように、表すことができる」こと、すなわちその子の思い（主題）を実現させることである。

図画工作科で身に付けるべき「資質や能力」と、「その子のもつ思い（主題）」の両面に視点を当て、つくったり見たりすることそのものに喜びを感じながら、思いの実現を図る図画工作科の授業を目指すこととした。

※図画工作科における「主題」とは、「自分は何に感動し、何をどのように表したいのか。」といった、その子のもつ「思い」のことである。

1 主題設定の理由

(1) 今日の課題

① 「静岡市の教育基本構想」と図画工作科

静岡市の「新しい時代をひらく教育基本構想」政策課題Ⅳ・Ⅴ・Ⅵでは「豊かな人間性」の育成、「確かな学力」の育成、「健康な身体」の育成を通して、「一人ひとりの自己実現による幸福を目指す」こと及び、「社会を支える人材を育成する」ことを基本的な目標としている。これは新学習指導要領が示す「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視する「生きる力」をはぐくむ姿勢と合致する。これらの育成を目指す上で図画工作科が果たす役割とは何か。

図画工作科の授業の中で培われる力として、新しいものを創造していく上で必要な「自ら学ぶ意欲」、新たな知識や技能を自分の表現や鑑賞に取り入れていく「自己学習力」、主題に迫るために必要なものを取捨選択していく「判断力」、ひと・もの・こととのかかわりの中で新たなものを生み出していく「創造力」、主題に迫る中でみつけた課題を解決するための道筋を考えたり、課題を解決したりする「思考力」、自分の思いをかたちにし、他者に発信していく「表現力」などが考えられる。また、豊かな体験活動（造形活動）が、「感性」を育む大切な機会となる。これら図画工作科で培われる力は、すぐに形に現れるものばかりではないが、自己実現による幸福につながる大切な役割を担っているといえる。

② 「新学習指導要領」と図画工作科

新学習指導要領における図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

今回の改訂では、新たに「感性を働かせながら」という言葉が加わり、より子どもの感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を働かせることを重視する目標になっている。

ここでいう「感性」とは、「感じる」ではなく「感じ取る」という意味をもつ。これは、意識を向けて感じ取ること、すなわち能動的に感じ取ろうとすることと捉えることができる。また、小学校の教科目標において「感性」という言葉が使われている教科は、音楽科と図画工作科の二つである。音楽科の目標では「感性を育て」となっているのに対し、図画工作科では「感性を働かせながら」となっている。これは、生まれてからこれまでに培ってきた子どもたちの感覚や感じ方を十分に生かして、と捉えることができる。

ここで、平成10年の改訂で新たに加えられた「つくりだす喜び」にも注目してみたい。「つくる喜び」ではなく、「つくりだす喜び」となっているのは、プラモデルを組み立てるように、与えられたものを完成させた喜びを味わうのではなく、自分で考え生み出したものを完成させた喜びを味わうということである。このようにして得られた喜びは、形や色、技法、材料や用具などに対する好奇心や関心・意欲・態度などを増幅させ、次なる造形活動への原動力になるものである。

図画工作科の目標の記述順に注目してみると、「造形的な創造活動の基礎的な能力を培い」の言葉の前に「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう」という言葉がきている。このことから、子どもたちの感覚や感じ方を生かしながら、つくりだす喜びを味わわせることを重視していることがわかる。

これらのことから、図画工作科という教科は、よりよく生きようとする児童の情意の調和的な発達をねらいとし、新学習指導要領に謳われている「生きる力」につながる重要な役割を担っていると捉えられる。

③ 「言語活動の充実」と図画工作科

新学習指導要領の改訂の要点に「言語活動の充実」がある。これは、OECDが2003年に実施したPISA調査の結果から、わが国の子どもたちの思考力・判断力・表現力を育むため、各教科等における「言語活動の充実」が必要であると判断され示されたものである。では、図画工作科における「言語活動の充実」をどのように捉えればよいだろうか。学習指導要領・中央教育審議会答申・その他書籍からみてみたい。

新学習指導要領第1章総説・3図画工作科の要点(ii)内容改善エ言語活動の充実

「B鑑賞」の各学年の内容に「話したり、聞いたりする」「話し合ったりする」などの学習活動を位置づけ、言語活動を充実する。

中央教育審議会（第63回）幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び 特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）

7 教育内容に関する主な改善事項 (1) 言語活動の充実の図画工作、美術、芸術（美術・工芸）(i) 改善の基本方針

- 創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。
- よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識を批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。

「新しい学習指導要領を読む 図画工作・美術」日本文教出版 静岡市採用教科書解説

「答申」では、「言語は、知的活動（論理や思考）だけでなく、（中略）コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。」と示されている。言葉による表現・鑑賞と形や色を通した表現・鑑賞は排斥しあうものではないが、形や色、直感的なイメージを通した言葉によらないコミュニケーション（交流）活動も図画工作・美術科における他の教科にはない独自の言語活動であることを確認したい。

以上のことから、本研究では鑑賞活動において「話す・聞く」「話し合う」といった言葉によるコミュニケーション活動を取り入れ「言語活動の充実」を図ることとした。また一方、形や色、直感的なイメージを通した言葉によらないコミュニケーション（交流）活動も図画工作科における重要な言語活動と捉え、表現活動や鑑賞活動の中で重視していきたいと考えた。

（２） 自己課題

図画工作科の授業を通して、子どもたちには、「つくることって楽しいな。」という充実感や「できた。」といった達成感を味わってほしいと考えていた。そこで大切にしてきたのが、技法の指導であった。子どもたちが充実感や達成感を味わうためには、「表したいものを、表したいように、表す」ことができなければ、それらを実感することができないと考えていた。そこで、「表したいものを、表したいように、表す」ための手だてとして、表現に必要な技法を積極的に教え込んできた。それらの手だては、図画工作科を苦手と感じている子どもにとって拠り所となり、作品完成までの大きな支えとなってきたのも事実であった。

しかし、その一方で「課題」も生まれた。図画工作科でつくられた作品は、校内・校外に展示されたり、各種のコンクールに出品されることが多い。「展示する」「出品する」ことに捕らわれると「作品の出来映え」に自然に意識が向かってしまう傾向があった。「作品の出来映え」を追求するあまりに、技法指導のための時間が多くなり、子どもたちの思いや教科のねらいを意識して、指導することが少なくなってしまうていた。

このように、教師本位の指導を受けた子どもたちは、次第に教師を頼るようになり、「先生、次はどんな色で塗ればいいですか。」「これで（制作を）終わりにしていいですか。」など、教師に判断を委ねるようになっていった。

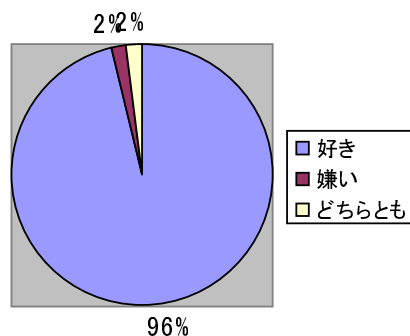
以上のように、「作品の出来映えのよさに主眼を置いた授業」、「技法を教え込む教師主導の授業」が反省点として挙げられた。そのことから「子ども一人ひとりの思いを十分に生かしながら、教科のねらいである『つくりだす喜び』を味わわせていく」ことが自己課題として明確になってきた。

（３） 子どもの意識と図画工作科

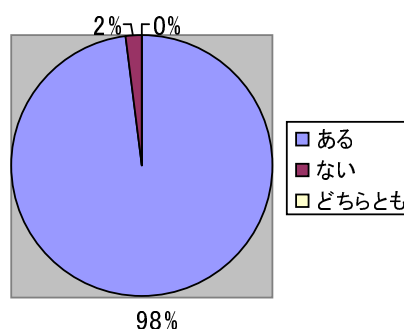
平成19年5月にまとめられた国立教育政策研究所による「音楽・図画工作等の学習に対する児童生徒の意識調査」がある。その調査結果を見てみると「図画工作が好きだ。」という質問に対し、4年：88.4%・5年：86.3%・6年：81.0%と、図画工作を楽しんでいる子どもが多いことが分かる。本研究で実践授業を行った本校5年

生の事前アンケートにおいても96%の子どもが「図画工作が好きだ。」と答えている。好きな理由として「いろいろなものを作ることができるから。」「自分オリジナルのものをつくって、工夫してやるところが好きだ。」「発明家になった気分で作れるから。」など、つくりだすことそのものを楽しいと感じている子どもが多いことが分かる。【図1】

【図1 図画工作が好きか】



【図2 図画工作で「満足感」をもてたか】



また、「図画工作で「満足感」を感じたことがありますか。」と質問したところ98%の子どもが「ある」と答えている。【図2】「どんな時に満足感を感じるか。」を聞いてみると、「作品が完成したとき。」「うまく描けたとき。」「自分の思い通りに描けたとき。」など、自分がはじめに思い描いた通りの作品が出来あがったとき、子どもたちは、大きな満足感を感じていることが分かった。逆に満足感を感じたことがないという子どもに意見を聞いてみると「思い通りに絵が描けない。」「思ったような形にならない。」と答えた。

このアンケート調査から、子どもたちが図画工作科の授業で「喜び」を感じるためには、子ども自身の思い（主題）を実現させていくことが不可欠であるということが窺える。

以上のことから、今日的な課題と自己課題、子どもの実態から、本研究主題は、「生きる力」育成の一端を担う図画工作科教育の目的に結びつくものであり、さらに、自己の指導力向上を目指す上でたいへん意義深いものであると判断した。

2 研究の目標

今日的な課題と自己課題、子どもたちの実態に基づき、図画工作科の表現と鑑賞の授業実践を行い、その内容を分析・考察し、いかにすれば子どもたちに『つくりだす喜び』を味わわせることができる授業になるかを明らかにする。

3 研究仮説

表現と鑑賞の活動において、子どもの思い（主題）を大切にしながら、その実現に向け、効果的な手だてを講ずることで、『つくりだす喜び』を味わわせることができるのではないかと仮定する。

（１）『子どもの思い』をふくらめるための導入の工夫（題材との感動的な出合わせ方）

学習課題の工夫

今までの表現・鑑賞 (現在の自分)

感動的な題材との出会い

主題を振り返る 再確認 再構築

思いをふくらめる場

新たな表現・鑑賞 (新たな自分)

提示 課題意識

問題意識 追求 解決 振り返り

言語活動の充実

必然性を生み出す学習課題の工夫

子どもたちが「描いてみたい。」「つくってみたい。」「見てみたい。」と思うためには、題材との感動的な出会いが重要になってくる。そこで大切にしたいのが、「これから何がはじまるのかな。」といった期待感を持たせることである。子どもたちの知的好奇心は、未知の部分に出会ってみたいと思った時に生まれることが多い。子どもがわくわくするような題材との出会いが、後の表現及び鑑賞の意欲にもつながることになる。

② 必然性を生み出す学習課題の工夫

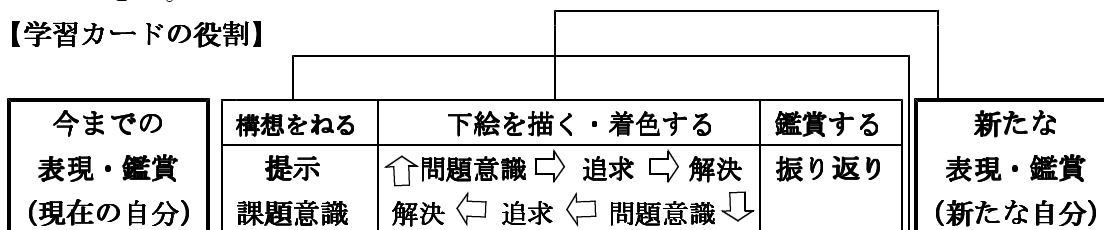
-長期研修 5 -

(2) 子どもの思い（主題）を明確にし、表現及び鑑賞の見通しがもてる

『学習カード』の活用

主題設定から作品完成まで、子ども自身が見通しを持って取り組めるように『学習カード』を活用することで、主題実現に向け、制作が進んでいるかを常に確かめることができる。

【学習カードの役割】



物語絵「銀河鉄道の夜」で活用した学習カード

平成21年度 5年図画工作 構想カード 物語「銀河鉄道の夜」

どんな場面を、どのような感じに描きますか。

例：汽車が、ジョバンニを乗せ、一瞬で夜空に上っていくところ。

画面に描き入れたいものはなんですか。また、どんな様子ですか。

描き入れたいもの（登場するもの）	それは、どんな様子ですか
例：ジョバンニ	例：汽車がどんどん地球から離れていくことに驚いている。
例：汽車	例：星がいっぱいの宇宙の中を勢いよく走っている。

今日の授業を振り返ってみよう

10/1 第1時	【自分が描きたい場面の様子が描けましたか。】 よくできた・できた・できなかった・全くできなかった
今日やること 感想 構想図	例：汽車がハイスピードで、夜空に消えて行くように表現できました。
10/2 第2時	【水彩絵の具の特徴を生かして、着色できましたか。】 よくできた・できた・できなかった・全くできなかった

【主題を明確にする】

自分の描きたいイメージを言葉にすることで明確にする。

【常に主題を確認できる】

【見通しがもてる】

今日の取り組みを振り返る。

【次時の課題を明確にする】

① 主題を明確にし、立ち返ることができる学習カード

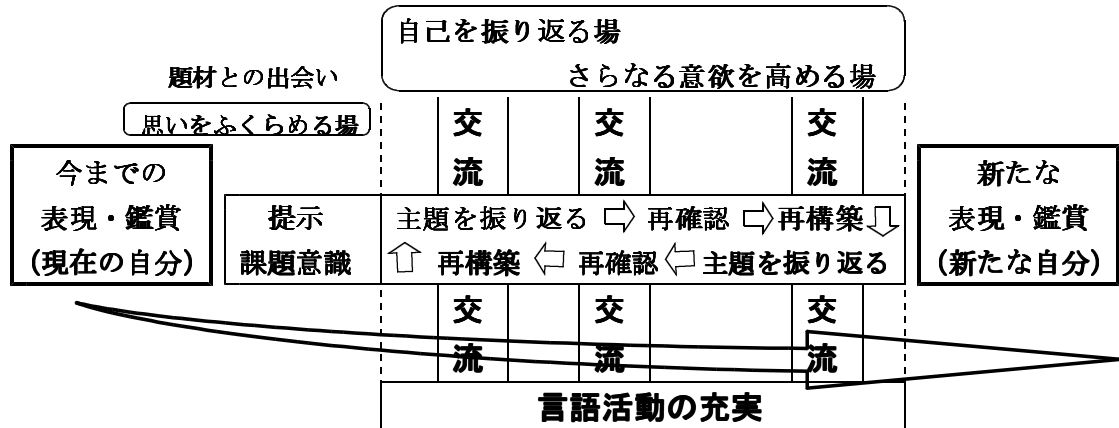
制作活動に必要なのは、「自分が何に感動し、そこに何をどのように表したいのか。」といった主題を明確にすることである。制作する中で主題が変化していくこともあるが、あいまいなままでも、自分が表したいイメージを言葉として書き表すことで主題が明確になっていく。そこで、今回は、学習カードの上部に主題を書き表す欄を設けることで、常に主題を意識し、自分が主題に向かって制作を進めているかどうかを確認できるように考えた。

② 見通しを明確にしていく学習カード

見通しを持つことは、制作活動において重要な役割の一つである。学習カードの日付の欄に、本時の学習内容のポイントと制作時数を事前に記載することで、今日やるべきことが明確になり、主体的に制作に取り組む姿勢も生み出すことができると考えた。

(3) 相互啓発を図る交流の場『交流タイム』の設定による言語活動の充実

友だちとの『交流タイム』を通して、友だちの表現や鑑賞のよさや工夫、違いなどを知る。そのことが各自の思いをふくらめ、さらなる表現及び鑑賞の意欲に発展していく機会となる。このように『交流タイム』を設定することにより、互いのよさを認め合ったり、自他の肯定感を高めたりすることもできる。



① 『交流タイム』の設定

交流する意義は、主題の確かさや制作の方向性、表現方法などについて振り返ったり、確認したりすることにある。そうした交流によって得られたことが、さらなる表現及び鑑賞の意欲につながっていく。

しかし、子ども自身が交流を必要としていなければ、単なる見合う活動になってしまう。そこで、題材の特性や子どもの実態に応じて、交流の形態や実施するタイミングを工夫することにした。そのことが、かかわる必然性を生み、より高い意識をもって交流する姿を生み出すことにつながるのではないかと考えたからである。そうした交流の場を通して、子どもたちは思いや意欲をふくらめながら制作に取り組むことができると考えた。

② 言語活動の充実

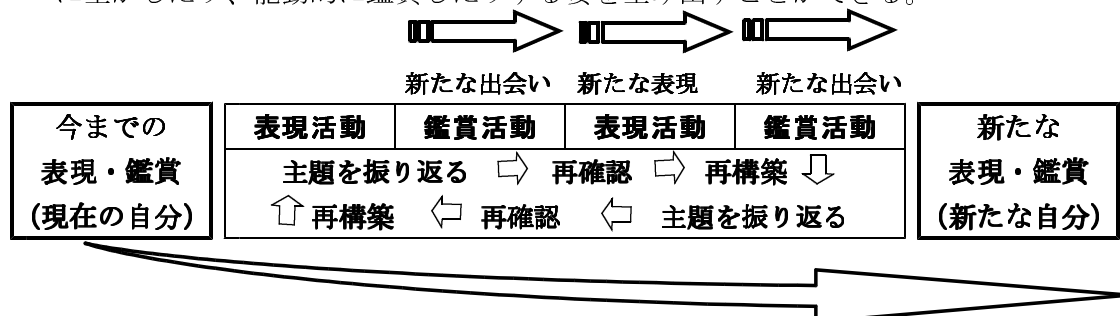
今回の学習指導要領の改訂のポイントとして「言語活動の充実」が謳われている。そこで、本研究では『交流タイム』において、その趣旨を生かし「話す・聞く」「話し合う」といった活動を意図的に取り入れ、「言語活動の充実」を図ることとした。

一方、図画工作科では、書籍「学習指導要領の解説と展開」（教育出版）において「図画工作における言語活動は、作品を見て語り合うことはもちろんであるが、形や色を通した言葉によらないコミュニケーション能力を高めることも言語活動の充実となる。」と述べられている。このように、図画工作科における言語活動は、他教科と異なり、言葉によらないコミュニケーションも独自の言語活動であると捉えることができる。本研究においても、形や色を通した言葉によらないコミュニケーション（交流）も言語活動と捉え、表現活動や鑑賞活動の中で重視していきたいと考えた。

以上のように、『交流タイム』による子どもたちの表れは、今回の学習指導要領で求められている「言語活動の充実」につながるものと期待した。

（４）表現活動と鑑賞活動の一体化を意識した単元展開の工夫

本来、表現と鑑賞は一体のものと考えることができる。そこで、表現活動と鑑賞活動の関連性をもたせるような単元展開の工夫をすることで、鑑賞したことを自分の表現に生かしたり、能動的に鑑賞したりする姿を生み出すことができる。



① 表現と鑑賞の一体化について

新学習指導要領第４章指導計画の作成上の配慮事項（３）「Ｂ鑑賞」の指導に関する事項において、次のように述べられている。「『Ｂ鑑賞』は、形や色、作品などのよさや美しさを能動的に感じ取っていく資質や能力を育てる学習活動であり、「Ａ表現」とともに、児童の造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる二つの領域として構成している。表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質や能力を培うことができる。」

子どもたちは、一つの作品をつくりだす過程で、表現と鑑賞を繰り返しながら、思いを実現していく。学習指導要領でも示されているように、両者は本来一体であり、相互に関連して働き合っている。例えば、鑑賞する中で得たものが表現に生かされ、よりよい主題表現に変化していくといった姿は多分にある。

今回の研究においても、二領域が単独で存在するのではなく、互いに関連し働き合い、児童の資質や能力が培われていくような単元展開の工夫を、実践Ⅱにおいて試みようと考えている。

② 〔共通事項〕の新設

今回の学習指導要領の要点の一つとして、図画工作科では新たに〔共通事項〕が新設された。〔共通事項〕には、表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要なとなる資質や能力が示されている。共通に必要なとなる資質や能力とは、子どもが主体的に対象にかかわり、その特徴を捉えたり、そこからイメージをふくらめたりすることである。これらは、表現及び鑑賞の活動で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手がかりとなる。本研究においても、〔共通事項〕に示されている資質や能力にも注目し授業実践を行うものとする。

〈第５・６学年 共通事項〉

「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

5 検証計画

(1) 検証の視点

表現と鑑賞の活動において、つくりだす喜びを味わわせるために、主題実現に必要な手だてが有効に働いたかを調べる。

(2) 検証の方法

①検証のための授業実践

- 1) 対象：静岡市立西奈小学校 第5学年
- 2) 実施日と題材名：
 - ・6月中旬～7月上旬『銀河鉄道の夜』全12時間×4クラス（表現活動）
 - ・12月上旬『夢をはこぶサンタクロースの物語』全6時間
（表現活動と鑑賞活動の一体化を意識した授業）

②検証資料

- 1) 事前・事後アンケート（意識調査）
- 2) 学習カード・自己評価カード
- 3) 抽出児の観察・聞き取り
- 4) 作品（制作過程の作品や完成した作品）
- 5) 授業記録（ビデオ撮影による）

③収集場所

- 1) 実践の前後（事前・事後アンケート、抽出児の聞き取り・完成した作品）
- 2) 実践の過程（学習カード・自己評価カード・抽出児の観察・制作過程の作品）

④処理・解釈の方法

- 1) 事前の意識調査の分析
- 2) 実践後の意識調査の分析
- 3) 学習カード・自己評価カードの集計、分析
- 4) 実践後の抽出児の聞き取りからの分析
- 5) 事後研修における指導助言

6 指導の実際と考察

(1) 実践Ⅰ『銀河鉄道の夜』の概要と考察

①題材名『銀河鉄道の夜』 宮沢賢治 表現活動

対象児童：静岡市立西奈小学校 第5学年

実施日：平成21年6月17日（水）～7月3日（金）全12時間

②検証の手だてとの関連

『銀河鉄道の夜』では、**手だて（1）（2）（3）**を取り入れ実践する。

③単元における検証の手だての位置づけ

時	主な取組	児童の活動	研究構想との関連	検証方法
		・七夕祭りについて話し合い、夜空に興味を持つ。	【手だて（1） 導入の工夫】 物語との出会いを大切にする	

第1時	つかむ 構想をねる	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を聞き、内容を把握する。 ・自分が一番心に残った場面を選ぶ。 ・描きたい画面に登場する登場人物や背景・場面について学習カードに書く。 ・イメージスケッチする。(場面のだいたいを簡単に描く。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜空を走る機関車がイメージできるように映像や写真、交換音等を用意し、雰囲気づくりをする。(暗幕で教室を暗くする) ・物語が長文のため、内容を厳選する。(造形要素が含まれている場面) <p>【手だて(2) 学習カード】 学習カードを活用し、主題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードには場面・登場人物などを言葉や絵(イメージスケッチ)で表現できるようにする。 	学習カード イメージスケッチ 授業記録 作品 抽出児観察
第2・3時	構図を 考える	<ul style="list-style-type: none"> ・2枚の絵を比較鑑賞し、構図による印象の違いを考える。(奥行き・動き・重なり・強調) ・イメージスケッチをもとに自分が描きたい場面の様子が表現できるように構図を考える。 ・「交流タイム」で他者の作品を鑑賞し、自分の作品を再確認再構築する。 	<p>【手だて(3) 交流タイム】 相互啓発を図る交流の場の設定 (言語活動の充実)</p> <p>【全体交流の場】(言語活動の充実) 構図による印象の違いを考える。(2枚の絵の比較)</p> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>一人学び(構図を考える)</p> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>【個々交流の場】(言語活動の充実) 「交流タイム」を設け、他者の表現のよさや自分の表現との違いを知る。</p> <p style="text-align: center;">⇩</p> <p>一人学び(再構築する)</p>	学習カード 構想図 授業記録 作品 抽出児観察
第4時	下地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・主題に合った色画用紙を選び、ローラーを使って、下地をつくる。 	<p>【手だて(2) 学習カード】 学習カードを確認し、主題に合った下地をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に合った色画用紙を選ぶようにする。 	学習カード 授業記録 作品 抽出児観察
第5・6時	下絵を描く	<ul style="list-style-type: none"> ・構想図を参考に鉛筆で画用紙に下絵を描く。 	<p>【手だて(2) 学習カード】 学習カードを確認し、主題に合った構図を意識しながら、下絵を描く。</p>	学習カード 授業記録 作品 抽出児観察

第 7 ・ 8 ・ 9 ・ 1 0 時	着色する	<p>① 2枚の絵を比較鑑賞し、色による印象の違いを考える。</p> <p>② 主題にあった色を選び着色をする。</p> <p>③ 「交流タイム」で他者の作品を鑑賞し、自分の作品を再確認再構築する。</p>	<p>【手だて（3） 交流タイム】 相互啓発を図る交流の場の設定 (言語活動の充実)</p> <p>【全体交流の場】(言語活動の充実) 色による印象の違いを考える。 (2枚の絵の比較鑑賞)</p> <p>⇩</p> <p>一人学び (着色する)</p> <p>⇩</p> <p>【個々交流の場】(言語活動の充実) 「交流タイム」を設け、他者の表現のよさや自分の表現との違いを知る。</p> <p>⇩</p> <p>一人学び (再構築する)</p>	学習カード 授業記録 作品 抽出児観察
第 1 1 ・ 1 2 時	鑑賞する	<p>① 友だちの作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取る。 また、自分の表現との違いに気付く。</p>	<p>【手だて（3） 交流タイム】 相互啓発を図る交流の場の設定 (言語活動の充実)</p> <p>感じたことや思ったことを話したり、友だちと話し合ったりする。</p> <p>【手だて（2） 学習カード】 学習カードを活用し振り返る 完成作品や構想カードを見ながら、自己の取組を振り返る。</p>	学習カード 授業記録 作品 抽出児観察

④ 検証の手だてからみた学習指導の様子と考察

1) 『子どもの思い』をふくらめるための導入の工夫（手だて（1））

（題材との感動的な出会わせ方）



子どもが題材に初めて出会う時の感動を大切にすることで、子どもたちの表現及び鑑賞の意欲が高まり、こんなものをつくりたいという思い（主題）が明確になる。また、必然性を生み出す学習課題の工夫をすることで、継続的な表現及び鑑賞の意欲も引き出すことができる。

ア 具体的手だて

a 題材の選定

5年生の子どもの実態と、学習指導要領で求められている育成すべき能力を絵の中に表現できる題材であるかを考えた上で、「銀河鉄道の夜」を選定。

〈5年生の実態〉

- ・高学年の特徴として、直接体験していないことにも思いをめぐらせたりすることができる。
- ・筋道を立てて表現したり、作品などを分析的に鑑賞したりできる。

〈時期〉

- ・昨年度、ディスカバリーパーク焼津のプラネタリウムに行ったことや、理科の授業で「星座」について学んだことが、宇宙への関心をより深めているのではないかと考えられたこと。
- ・4年国語で勉強した物語文「白いぼうし」は、幻想的（ファンタジー）な世界を表現した作品で、子どもたちはその作品を楽しみながら味わっていた。今回の物語も銀河を走る汽車という現実では考えられない空想の世界が、子どもたちの心を物語に引きつけるのではないかと考えられたこと。

〈高学年『A表現』で育成すべき能力〉

- ・奥行き・動き・重なり、強調といった表現技法や、混色・重色・濃淡といった水彩絵の具による色の効果を活用して表現できる題材であること。

上記の理由により、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を選んだ。

b 感動的な題材との出会い

物語の舞台が「銀河」であることから、室内が比較的暗くなるパソコン室を使用。大型TVに「銀河」の映像を流し、TVの前にスポットライトを当てた「汽車の模型」を提示。物語の世界に浸れるよう工夫し、その中で読み聞かせた。

c 必然性を生み出す学習課題の工夫

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」は長編の作品のため、場面を絞り、色や形、光、空間などがイメージしやすい構成とした。また、昨年度、4年生理科で学んだ「夏の大三角」を話の中に登場させることで、物語をより身近なものとして感じられるようにした。

《提示した物語の一部》

いつしか汽車は、地球をはなれ、キラキラと輝く星空の中を天に向かって力強く走りはじめていました。その途中には、いつかお父さんから教えてもらった、こと座のベガ、わし座のアルタイルなども見え、遠くには、赤く光った星、さそり座のアンタレスも見えました。

イ 子どもの反応

上記のような手立てによって感動的な題材（物語）との出会わせ方を工夫した。パソコン室内が暗くなり、TVに銀河の映像が映し出された時、子どもたちから「おおっ。」という歓声があがった。物語を読んでいる際には、銀河の映像に目を向けている子ども、時折、目をつむって頭の中でイメージをふくらめている子どもなど、さまざまな聞き方で物語の世界に浸っている姿が見られた。

物語との出会いを終えたあとの振り返りには、次のように書かれていた。

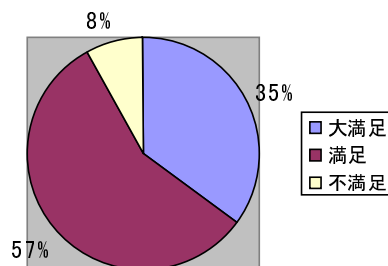
- ・「白鳥が汽車の外を飛んでいる様子が浮かんできた。」
- ・「映像を見ながら聞いていたら、物語のイメージがわいてきた。白さが消えていく様子が浮かび、描きたくなった。」

ウ 考察

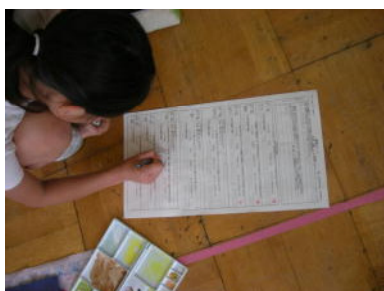
振り返りの言葉からも分かるように、子どもの実態にあった題材（「銀河鉄道の夜」）を選んだことは、子どもたちが物語の世界に入り込んでいく上で有効な手だてであった。また、物語の世界により入り込みやすくするための雰囲気づくりも、想像力を働かせるための手だての一つとなった。後の完成作品を見ても、さまざまな場面の絵が描かれていることから、物語との出会いの中で、「こんな世界を描いてみたい。」といった主題が明確になったのではないかと考える。

個別の聞き取りの中では、物語の内容を絞り込んだことについて、「物語の結末を知りたかった。結末によっては、描きたい場面が変わったかもしれない。」という意見が出された。物語をじっくり味わいながら読み想像する世界と、場面を絞った文章の中で想像する世界では、また違った表現が表れてくると思うが、高学年で育成すべき力（奥行き・動き・重なり・強調・混色・重色・濃淡）を表現の中に取り入れることができる場面を選び提示したことと、限られた時間の中で描くことを【図3 イメージスケッチの自己評価】

考えると、適切な文章量ではなかったかと考える。右に示したグラフ【図3】は、第1時の自己評価をまとめた結果である。「自分が描きたい場面のイメージスケッチが描けましたか。」という質問に対し、92%の子どもが大満足・満足と答えている。この結果からも、「題材の選定」「題材との出会わせ方」「学習課題の工夫」の3つの手だては、主題を明確にするものとして、有効に働いたと言える。



2) 子どもの思い（主題）を明確にし、表現及び鑑賞の見通しがもてる（手だて（2）） 『学習カード』の活用



主題設定から作品完成まで、子ども自身が見通しを持って取り組めるように『学習カード』を活用することで、主題の実現に向けて制作が進んでいるかを常に確かめることができる。

ア 具体的手立て

a 主題を明確にし、立ち返ることができる『学習カード』

- ・主題を明確にするために、物語を聞き、自分が一番描きたい場面は、「どのような場面なのか。」また、「その場面にどのようなものが登場し、それはどんな様子か。」を具体的に言葉として書く欄を設ける。

- ・学習カードの一番上に主題を書く欄を設け、制作途中や振り返りの場などで、常に確認できるようにする。

b 見通しを明確にしていく『学習カード』

- ・学習カードの日付の欄に、本時で取り組む内容と制作時数を事前に記載しておき、見通しをもって制作に当たれるようにする。

イ 子どもの反応（『学習カード』に書かれた子どもたちの言葉）

〈主題を意識した姿が見られる振り返りの言葉〉

- ・「奥行きを使ったことで、汽車が星空の彼方に消えていくように描けました。」
- ・「はじめは汽車が地上から飛び立つところが描きたかったけど、だんだん考えが変わってきて、星空の中を走っているところを描きたいと思うようになった。」

〈主題を意識し、次時の課題を明確にした姿が見られる振り返りの言葉〉

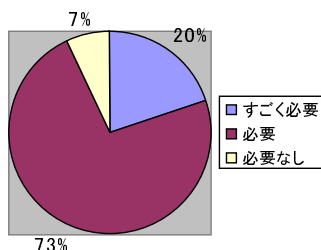
- ・「次の時間は、空いっぱい白鳥を描いて、夜空に輝く星のようにしたい。」
- ・「画面の右側に星がまとまりすぎてしまったので、次の時間は、画面全体に星が広がるように、バランスを考えながら星を描きたい。」

ウ 考察

振り返りの言葉からも分かるように、主題に迫っているかどうか確かめながら振り返りを行っている。このことから『学習カード』が、主題を意識させたり、表現の見通しをもたせたりするなど、主題を実現していく上で大きな役割を果たしていることが分かる。

「作品づくりに学習カードが必要であったか。」を聞いたアンケートでは、93%の子どもが、「必要であった。」と感じている。【図4】しかし、自分の思いや感じたことを、文章に表すことが苦手と感じている2人の子どもは、「必要ない。」と答えている。この

【図4 学習カードの必要感】



ように、個人差もあることから、文章に表すことが苦手な子どもに対しては、教師が個別に聞き取りをしたり、学習カードに励ましやよさ認める言葉などコメントを入れたりして、気持ちを的確に表現できるような手だてを講じる必要があると感じた。

3) 相互啓発を図る交流の場『交流タイム』の設定による言語活動の充実（手だて(3)）



友だちとの『交流タイム』を通して、友だちの表現や鑑賞のよさや工夫、違いなどを知る。そのことが各自の思いをふくめ、さらなる表現及び鑑賞の意欲に発展していく機会となる。このように『交流タイム』では、互いのよさを認め合うことで、自他の肯定感を高めることもできる。

ア 具体的手立て

交流の場の設定

4回の『交流タイム』を実施。

1回目：構想図段階 ・ 2回目：下絵づくり段階、3・4回目：着彩段階
これらの時間は、個々の思い描いた世界を明確に伝えたり、逆にどのように描けばよいか迷い、立ち止まったりしやすい時間である。そのことから、このタイミングで交流の時間をもち、友だちとかかわることで、より一層表現の意欲が高まったり、不安を解消したりする場として有効に働くと考えた。

〈方法〉 クラスを2つに分ける。(交代制)

- ・ 見る側：絵を見て、聞きたいことがあれば質問する。
- ・ 説明する側：絵に対する質問に答える。

イ 子どもの反応

『交流タイム』が始まると、友だちの作品の周りに集まり、制作途中の作品について質問したり、作品の感想を言い合ったりして交流していた。その中で、工夫されているところや、自分の作品に取り入れていきたいところを見付けていった。友だちの作品を見ることができるといことで、交流を楽しんでいるようであった。

『交流タイム』を終えたあとの振り返りには、次のように書かれていた。

- ・ 「自分と同じ場面を描いていても、他の人が描いたのと比べると、ぜんぜん違う絵が楽しめたので、すごくよかった。」
- ・ 「奥行きや重なりがうまく使われていて、自分も参考にしようと思った。」
- ・ 「天の川の星の形を工夫したり、塗り方を工夫したりしていて、自分の絵に付け足したいもの、参考になるものがたくさんあった。」
- ・ 「友だちが、私の絵をほめてくれたのでうれしかった。」

ウ 考察

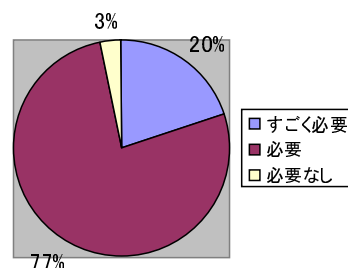
a 『交流タイム』実施のタイミング

上記のように4回の『交流タイム』を実施した。『交流タイム』を体験した子どもたちからは、授業後の感想において、「奥行きがうまく使われていて、自分も参考にしようと思った。」など、主題実現のため、友だちの工夫を、自分の作品に生かしていこうという意見が多く述べられていた。また、制作に『交流タイム』

が必要であったかという質問に対し97%の子どもが必要であったと答えていことから、主題実現のために、『交流タイム』が有効に働いたと言える。【図5】

しかし、個別の聞き取り調査の中では、「着色の第1時の交流タイムは、まだ制作が始まったばかりで、集中して描きたかったので交流タイムはあまり必要ではなかった。」といった意見もあった。『交流タイム』は、主題実現のために必要な時間であると考えているが、「どのタイミングで設定していくか」を考えていく必要があると感じた。

【図5 交流タイムの必要感】



④ 『交流タイム』の目的と視点の明確化

課題として、子どもたちの感想の中に、「自分よりうまかった。」「私より、あの子の方が上手だなと思った。」という意見もあった。自他の作品に優劣を付けるような見方では、制作活動にとってあまり好ましいことではない。これらのことから、「なぜ、交流するのか。」「どんな視点で作品を見るのか。」を子どもたちに十分意識させて、交流を行う必要があると痛感した。

⑤ 検証の手だて以外の手だてからみた学習指導の様子と考察

1) イメージスケッチ（落書きスケッチ）による描くことへの抵抗感の軽減

導入において、主題を簡単にイメージスケッチする時間をつくった。イメージスケッチとは、画面の中の「どこに、何が、どのように」描かれるかを落書きのように簡単に描くことである。時間は、約10分間。子どもたちには、「落書きでいいよ。」と投げかけた。その言葉が、絵を描くことを苦手と感じている子どもたちの気持ちを楽にさせた。イメージスケッチを描いた後の感想では、「今回は、上手に描けそうだ。」と今後の制作に希望をもったコメントが書かれていた。この手だては、思い描いた世界をイメージさせる手だてとして有効に働いたということができる。

【空いっぱい星が輝いている場面】



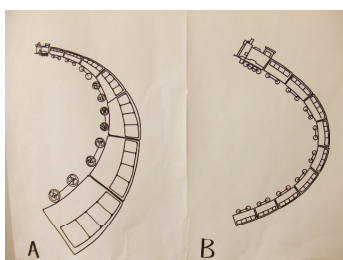
2) 「構図」による印象の違いを分かりやすく伝える工夫（比較鑑賞）

奥行き・動き・重なりといった「構図」による印象の違いを2枚の絵を比較鑑賞しながら学んだ。「構図」を学んだ子どもたちは、自分の表現に必要な要素を作品の中に取り入れ、構図図を完成させた。

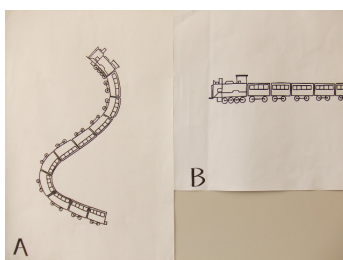
2枚の絵を比較鑑賞することで、子どもたちに「構図」による印象の違いを分かりやすく伝えることができた。また、その違いを子ども自身に気付かせることとなり、自己課題でもあった教師主導の授業から、子ども主体の授業へと転換していく有効な手だてとなった。

〈【構図】比較鑑賞の例〉

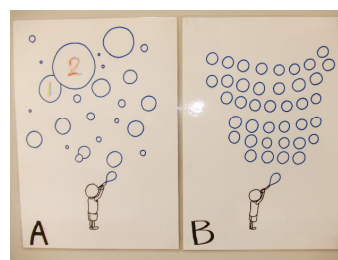
【奥行き】



【動き】



【重なり・並び・大きさ】



3) 「お試し用紙」による着彩への不安感の解消

今回は、はじめて色画用紙に着彩する活動であった。はじめての活動であることから、子どもたちは、「色画用紙に水彩絵の具で色を塗ったら、どんな色ができるのだろう。」と不安を抱いていた。そこで、試し塗りができるB5サイズの色画用紙を用意した。子どもたちは、「お試し用紙」に試し塗りをしてから、本番用紙に着彩していった。この手では、子どもたちの不安感を解消するとともに、主題に迫る色合いであるかどうかを確かめる場としても有効に働いた。

4) 友だちの作品から学ぶ表現技法

着彩の第2時の導入において、混色・重色・濃淡を効果的に活用している友だちの作品をクラス全体で鑑賞した。教師からの指導だけでなく、友だちの作品から学ぶことで、それら技法の活用を自分ごととして感じ、表現意欲を高めることに繋がった。

⑥ 完成した作品



(2) 実践Ⅱ『夢をはこぶサンタクロースの物語』の概要と考察

① 題材名 『夢をはこぶサンタクロースの物語』

表現活動と鑑賞活動の一体化を意識した授業

対象児童：静岡市立西奈小学校 第5学年

実施日：平成21年12月 9日（水）～12月14日（月）全6時間

② 検証の手だてとの関連

『夢をはこぶサンタクロースの物語』では、主に**手だて（1）（3）（4）**を取り入れ実践する。

③ 単元における検証の手だての位置づけ

時	主な取組	児童の活動	研究構想との関連	検証方法
		・クリスマスについて話し合い、サンタクロースに興味を持つ。	【手だて（1） 導入の工夫】 絵画を鑑賞する必然性を生み出す ・子どもを取り巻く環境に注目。 （12月の恒例行事として定着	

第1・2時	<p>【鑑賞活動】</p> <p>↓</p> <p>絵画鑑賞</p> <p>↓</p> <p>絵画紹介文づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創作物語を聞く。 ・世界の絵画の中から一番感動した絵を選ぶ。 ・選んだ絵から感じたことを書く。 ・同じ絵を選んだもの同士で集まりその絵の感想を伝え合う。 ・選んだ絵画の紹介文をつくる。 	<p>しているクリスマスに注目。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスと鑑賞活動をつなぐ物語をつくる。(物語に登場する少女に主人公であるサンタクロースが世界の絵画を紹介するというストーリー) <p>【手だて(3) 交流タイム】</p> <p>相互啓発を図る交流の場の設定</p> <p>(言語活動の充実)</p> <p>[同じ絵を選んだもの同士交流]</p> <p>絵画から受けた印象について話し合う。</p> <p>↓</p> <p>一人学び</p> <p>(絵画を紹介する文章を考える。)</p> <p>※交流で得たものや、画集を参考に。</p>	学習カード 授業記録 構想文 抽出児観察
第3・4時	<p>↓</p> <p>【表現活動】</p> <p>カードづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文と絵画(コピー)・サンタクロースを組み合わせて、クリスマスカードを作成する。 ・「交流タイム」で他者の作品を鑑賞し、自分の作品を再構築する。 	<p>【手だて(3) 交流タイム】</p> <p>相互啓発を図る交流の場の設定</p> <p>(言語活動の充実)</p> <p>[同じ絵を選んだもの同士交流]</p> <p>どのような構図でカードを作っているかを見合う。</p> <p>↓</p> <p>一人学び</p> <p>(クリスマスカードを作成する。)</p>	学習カード 授業記録 クリスマスカード 抽出児観察
第5・6時	<p>↓</p> <p>【鑑賞活動】</p> <p>鑑賞する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を鑑賞する。 	<p>【手だて(3) 交流タイム】</p> <p>相互啓発を図る交流の場の設定</p> <p>(言語活動の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少女レナになったつもりで紹介文を聞き合う。 ・友だちの作品をみて、よかったところを付箋に書き渡す。 	学習カード 授業記録 クリスマスカード 抽出児観察
<p>↓</p> <p>単元展開【手だて(4)表現と鑑賞の一体化を意識した授業展開】</p>				

④ 検証の手だてからみた学習指導の様子と考察

1)『子どもの思い』をふくらめるための導入の工夫（手だて（1））

（絵画を鑑賞する必然性を生み出す手だて）



子どもが題材に初めて出会う時の感動を大切にすることで、子どもたちの表現及び鑑賞の意欲が高まり、こんなものをつくりたいという思い（主題）が明確になる。また、必然性を生み出す学習課題の工夫をすることで、継続的な表現及び鑑賞の意欲も引き出すことができる。

ア 具体的手だて

a 絵画を鑑賞する必然性を生み出す物語の創作

5年生の子どもの実態と取り巻く環境、学習指導要領で求められている育成すべき能力（鑑賞活動のねらい）に視点を当てた上で、「夢をはこぶサンタクロースの物語」を創作。

〈5年生の実態〉

- ・高学年の特徴として、直接体験していないことにも思いをめぐらせたりすることができる。
- ・筋道を立てて表現したり、作品などを分析的に鑑賞したりできる。

〈時期〉

- ・12月に入り街路樹に、きらびやかな電飾が飾られ、店先には、クリスマスを意識したディスプレイが登場したこと。
- ・クリスマスは毎年恒例行事として定着しているため、多くの子どもがクリスマスにまつわる思い出をもっているであろうと考えられたこと。

〈高学年『B鑑賞』で育成すべき能力〉

- ・自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品などのよさや美しさを感じ取ることや、感じたことや思ったことを話したり、友だちと話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えることができる題材であること。（高学年「B鑑賞」目標）

〈物語にした理由〉

- ・前回の**実践Ⅰ**において構想表現に挑戦した際、物語の世界に思いを巡らせ、さまざまな場面を描き出せたこと。（銀河鉄道の夜：宮沢賢治）
- ・鑑賞活動と物語を結びつけた題材にすることで、想像することを楽しみながら表現できる子どもたちの力を、この単元においても生かせるのではないかと考えたこと。

〈物語のねらい〉

- ・子どもたち一人ひとりが物語の主人公（サンタクロース）であると設定する。そのことで、題材への期待感を生み、鑑賞に向かう意欲を高める。
- ・「世界中を旅してたくさんの絵を見てみたい。」という少女の願いを叶えるという設定が、他者意識を持たせ、絵画を鑑賞する必然性を生む。

- ・ 目の不自由な少女を設定することで、必然的に絵画を自分の中で一旦そしゃくし、自分自身の言葉によって少女に説明しなければならいという状況が生まれ、そのことが作品と能動的にかかわり、真剣に鑑賞する姿勢を生み出す。

上記の理由により、「夢をはこぶサンタクロースの物語」を創作した。

『夢をはこぶサンタクロースの物語』

この物語は、12月24日の夜にサンタクロースからのプレゼントを待つかわいい女の子と、やさしいサンタクロースのお話です。

その女の子の名前は“レナ”。6歳の女の子です。彼女は、12月になるとお母さんとクリスマスツリーをかざり、ツリーのてっぺんに光るお星様に願い事をするのでした。

『早く目が見えるようになりますように。』

レナは、お絵かきが好きな女の子でした。庭に咲いているお花、きれいな鳴き声の小鳥、いつも仲良しの家族。いろいろなものをスケッチブックに描きました。レナの部屋は、いつもレナの描いた絵でいっぱいでした。そんなレナが、ある日、病気にかかり、目が見えなくなってしまいました。レナは、かなしくてかなしくて仕方がありませんでした。しかし、そんなレナを勇気づけてくれたのが、同じ病院に入院していたジョンでした。ジョンは、目の見えないレナに、たくさんの絵本を読んでもくれました。その絵本には、たくさんのきれいな絵が描かれていることを教えてくれました。大好きな絵の話を聞くうちに、レナには、一つの夢が生まれました。それは、『世界中を旅していろいろな絵を見てみたい。』という夢でした。

2009年12月 9日、レナのお母さんはレナの願いをかなえるために、一通の手紙をサンタクロースにだしました。

親愛なるサンタクロースさんへ

わたしには、“レナ”という6歳の娘がいます。レナは3歳の時に病気にかかり、

目が見えなくなってしまいました。そんな“レナ”には、夢があります。それは、

『世界中を旅していろいろな絵を見たい』という夢です。その願いを少しでもか

なえてほしいのです。どうかよろしくお願いします。 “レナ”の母より

そのころ、サンタクロースはクリスマスに備えて、ソリの手入れをしていました。サンタクロースは、手入れが終わると自分の部屋にもどり、冷えたからだをあたためるためにあたたかなミルクを飲みました。あたたかなミルクで、からだがぽかぽかしてきたころ、一通の手紙が届きました。それは、“レナ”のお母さんからの手紙でした。それを読んだサンタクロースは、“レナの夢を叶えてあげたい”と思いました。どうしたらレナの夢をかなえてあげられるだろうか。しばらく考えたサンタクロースは、よいことを思いつきました。レナの家に行く間に見つけた、世界中にある有名な絵を、クリスマスカードにして渡してあげようと考えました。カードにしてあげれば、お母さんがそのカードをレナに読んで聞かせてくれるだろうと思ったのです。サンタクロースは、さっそく旅のしたくをすますと、白い大きな袋を持って、旅に出かけました。

**子どもたち一人ひとりが、レナに渡すクリスマスカードをつくる。
(提示された8枚の絵画の中から一点を選び、その絵を紹介するカードをつくる。)**

このようにして、世界中を旅してつくったクリスマスカードを、きれいな箱に一枚一枚でいねいに詰めました。

そして、12月24日の夜、“レナ”が寝ているまくら元にそっとその箱を置きました。『早く目が見えるようになるといいね。』と願いを込めて、ほっぺにキスをしました。

次の日の朝、お母さんが台所であたたかなスープをつくっていると、2階から、『お母さん、お母さん！』というレナの大きな声が聞こえました。いつもとちがうレナの声におどろいたお母さんは急いで2階に上り、部屋のドアを開けました。するとどうでしょう。小さいころ、病気で何も見えなくなっていたレナが、クリスマスカードを手にとり『見える見える、素敵な世界が見えるわ。』と喜んでいるではありませんか。それを見たお母さんの目からは、大粒の涙がこぼれ落ちていました。お母さんは『きっと、サンタさんが私たちの願いをかなえてくれたんだわ。』と思いました。レナとお母さんは、サンタさんに感謝しながら、サンタさんがつくってくれたクリスマスカードを読み、見たことのない世界中の絵に心はずませるのですでした。

そんな二人の姿をながめていたサンタクロースは、にっこりほほえむと、遠くの空へ消えていきました。

b 感動的な題材との出会い

- ・ 教室にクリスマスツリーを飾ったり、クリスマスソングをBGMとして使用したりして、これから楽しいことが始まりそうだという期待感をもたせる。
- ・ 主人公（サンタクロース）になったつもりで鑑賞活動ができるように、子どもたち一人ひとりにサンタクロースの帽子を渡し、それを被って鑑賞活動を行う。



イ 子どもの反応

クリスマスツリーが飾られた教室に入ってきた子どもたちからは、「わーすごい。」という歓声があがった。同時に「これから何がはじまるのだろう。」という期待感をふくんだ笑顔が見られた。物語を読む前には、サンタクロースの帽子を一人ひとりに被せながら渡した。帽子を被った子どもたちは、友だちと顔を見合わせ少し照れているようであった。物語を読み始めると、子どもたちは主人公であるサンタクロースの気持ちになって、物語の世界に入り込んでいった。授業後の振り返りには次のような感想が書かれていた。

- ・「レナのために、サンタクロースになって、夢を叶えるためにがんばりたい。」
- ・「レナに絵を感じてもらって喜んでもらえたらいいなという気持ちになれた。」
- ・「友だちに、海外旅行に行って、手紙を書いているような気持ちで絵を紹介する文章が書けました。」
- ・「紹介する文章を書いているとき、レナに早く読んでもらいたいと思いました。」
- ・「ぱっと絵を見ると、あまりレナに伝える所がないけど、今日、絵を見つめてたくさん伝える所が見つかりました。私は、絵を見つめることは大切だと思いました。」

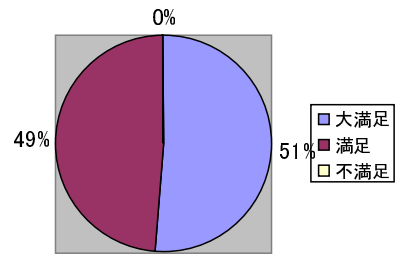
ウ 考察

子どもたちの振り返りから、クリスマスを舞台とした物語をつくり、その中に絵画を鑑賞する要素を取り入れたことや、主人公（サンタクロース）として子どもたち一人ひとりを物語の中に登場させ、少女の願いを叶えるという役割を与えたことが、主体的に絵画を鑑賞する必然性を生み出す有効な手だてとなったと言える。また、相手意識をもったこと

により、絵画をていねいに鑑賞しようとする姿も生み出すことにもなった。

このように、今、子どもたちが興味をもっているもの【図6 紹介文への満足度】と鑑賞活動を結びつけ、題材として提示したことは、鑑賞する必然性を生み出す手だてとして有効に働いたといえることができる。

右に示したグラフ【図6】は、「思い描いた通りの絵画を紹介する文章が書けたか。」を聞いたアンケート結果である。この質問に対し、全員が大満足・満足と答えている。このことから、絵画を読み取っていく活動そのものを、楽しみながら鑑賞することができたと考える。



一方、「課題」も生まれた。それは、絵画鑑賞が説明的になってしまったことである。目の不自由な少女に紹介する文章をつくるという設定にしたことから、絵の中に何があるかを説明的に表現する文章が多く見られた。絵画を鑑賞する時、どういうところに心揺さぶられたかといった感動も鑑賞するときの重要な要素である。その感動を言葉として表現することは難しいことでもあるが、大切にしていこう必要があると感じた。

3) 相互啓発を図る交流の場『交流タイム』の設定による言語活動の充実（手だて（3））

友だちとの『交流タイム』を通して、友だちの表現や鑑賞のよさや工夫、違いなどを知る。そのことが各自の思いをふくらめ、さらなる表現及び鑑賞の意欲に発展していく機会となる。このように『交流タイム』では、互いのよさを認め合うことで、自他の肯定感を高めることもできる。

ア 具体的手だて

a 言葉で伝え合う鑑賞活動『交流タイム』の実施

目の不自由な少女レナに絵画を紹介するという設定に合わせ、5人グループをつくり、話し手（サンタクロース4名）と聞き手（少女レナ1名）に分かれる。一人ずつ発表し、聞き手は、話し手が紹介した文章やカードのよかったところを伝えるようにする。



〈話し手の話し方・聞き手の聞き方〉

話し手：実際に目の不自由な少女レナに語りかけるように話す。

聞き手：少女レナになったつもりで話を聞くようにする。

（少女レナになりきるように、聞き手はアイマスクを使用する。）

話を聞く観点：絵の様子が伝わってきた、分かりやすい言葉。

：「うれしいな。」という気持ちになれた言葉。

※友だちの作品の「いいな。」と思ったところを伝え合う。

b 付箋に書いて伝える鑑賞活動『交流タイム』の実施

友だちの作品から感じたよさを付箋に書き、各自のカードに貼り付ける。(限られた時間の中で、より多くの作品を鑑賞できるようにするため。)



イ 子どもの反応

言葉で伝え合う鑑賞活動では、目の不自由な少女レナがイメージできるように伝えようと、表情豊かに話して聞かせる姿が見られた。聞き手もアイマスクをしたことで、少女レナになりきって、話し手の説明に耳を傾けていた。言葉で伝え合う鑑賞活動について、振り返りでは、次のように書かれていた。

- ・「自分がつくった絵を紹介した文を友だちに聞いてもらった。何だか、本当にレナにしゃべりかけているみたいで、楽しかった。」
- ・『「きれいなひまわりの様子が伝わってきたよ。」と言われてうれしかった。』
- ・「大きな波と小さな波を親子のようだと表現していたので、すごいと思った。」
- ・「アイマスクをしてレナの気持ちになったら、本当に絵を見ているような気持ちになりました。」
- ・「アイマスクをつけたら、いろんなことが想像できました。」

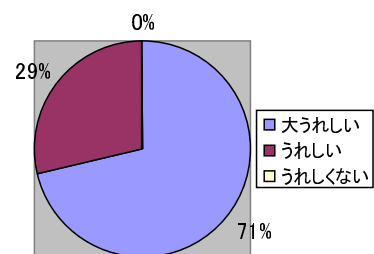
付箋に書いて伝える鑑賞活動では、言葉で伝えることがはずかしいと感じている子どもも、付箋に書くことで自分の思いを素直に表現でき、主体的に伝え合う活動に参加することができた。また、自分のカードに貼られた付箋を何回も読み直し、微笑んでいる姿も見られた。

ウ 考察

振り返りの言葉からも分かるように、クリスマスカードを紹介し合えたことに驚きと喜びを感じている。これらの姿は、『交流タイム』を通して、自他の表現や鑑賞のよさや工夫、違いなどを知ることができたことから生まれたものと考えられる。また、付箋に書かれたコメントを微笑みながら何回も読み直している姿から、よさを認め合う『交流タイム』が、自他の肯定感を高める機会となったと言える。このように、制作途中の『交流タイム』だけではなく、完成した作品を鑑賞し合う『交流タイム』も、主題を実現できたという喜びを味わわせるための有効な手だてとなると言える。

【図7 相互鑑賞に対する評価】

右のグラフ【図7】は、「友だちとクリスマスカードを紹介し合ってどうでしたか。」と聞いたアンケート結果である。その結果、全ての子どもが大変うれしい・うれしいと答えている。このことから、交流の場が『つくりだす喜び』をさらに高めることに繋がったと考える。



4) 表現活動と鑑賞活動の一体化を意識した単元展開の工夫（手だて（4））

本来、表現と鑑賞は一体のものと考えることができる。そこで、表現活動と鑑賞活動の関連性をもたせるような単元展開の工夫をすることで、鑑賞したことを自分の表現に生かしたり、能動的に鑑賞したりする姿を生み出したりすることができる。

ア 具体的手だて

a 単元展開の工夫

鑑賞活動と表現活動を交互に関連させた単元展開を工夫する。

第1次：鑑賞活動（我が国や諸外国の親しみのある美術作品を鑑賞する。）

第2次：表現活動（クリスマスカードをつくる。）

第3次：鑑賞活動（各自が作成したクリスマスカードを互いに鑑賞し合う。）

b 能動的に鑑賞する姿を生み出す工夫

物語に登場する少女に絵画を紹介するカードを作成（表現活動）し、渡すという設定にする。ただ鑑賞するのではなく、鑑賞した内容を他者に伝えるという設定にすることで、絵画を鑑賞する必然性が生まれ、能動的な気持ちで鑑賞する（鑑賞活動）姿勢を生み出す。

イ 子どもの反応

第1次で、我が国や諸外国の親しみのある美術作品（絵画8枚）に出会ったとき、子どもたちからは「きれいだな。」「この絵変わってるな。」など、絵画を目にした感動や驚きの言葉が聞かれた。選んだ絵画を物語の中の少女に紹介しようという設定であることから、子どもたちは、絵の中からできるだけたくさんの情報を得ようと、熱心に鑑賞していた。

第2次では、第1次で選んだお気に入りの絵画を紹介するカードを作った。どのようなカードにすれば、物語に登場する少女に分かりやすく伝えることができるか、画面構成を考えながら制作を進めていた。制作途中の『交流タイム』では、お互いの作品を熱心に見合い、自分の作品と比べながら、友だちの作品のよいところを取り入れようとする姿が見られた。

第3次では、制作したカードをお互いに鑑賞し合う活動を行った。自分の作品を言葉で伝える活動では、恥ずかしそうに発表している子どももいたが、目の不自由な少女レナに語りかけるようにていねいに紹介する姿が見られた。友だちの作品のよさを付箋に書いていく活動では、友だちのカードを手に取り、紹介文やデザインのよさや工夫をじっくり味わう姿が見られた。

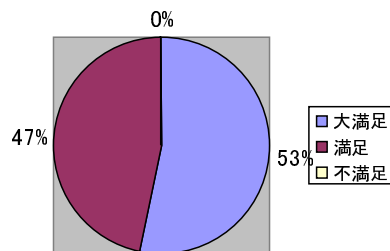
ウ 考察

目の不自由な少女レナに絵画を紹介したカードを渡すという設定をしたことで、絵画を鑑賞する必然性が生まれ、能動的に鑑賞活動を行う姿が見られた。これは、「少女に喜んでもらえるようなカードをつくりたい。」という表現活動（カードづくり）への思いの強さが生み出したものと考えられる。このように、鑑賞活動と表現活動が互いに働きあうように意図的に単元展開を工夫したり、題材を工夫することで、能動的に鑑賞する姿を生み

出すことができ、また思い描いたもの（主題）をよりよいものにしていこうとする機会にもなった。

右のグラフ【図8】は、単元終了後に『思い描いた通りの作品ができましたか。』と聞いたアンケート結果である。その結果を見ると、全ての子どもが大満足・満足と答えている。表現活動と鑑賞活動の一体化を意識した単元展開の工夫は、主体的に表現活動や鑑賞活動にかかわる姿を生み出す手だてとして有効に働いたと言える。

【図8 完成作品への満足度】



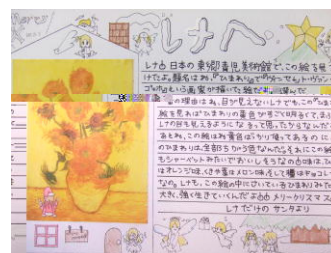
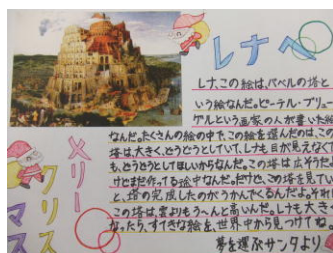
⑤ 目の不自由な少女レナのために書いた絵画を紹介する文章

【ひまわり】 ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ

レナ！日本の東郷青児美術館でこの絵を見つけたよ。題名はね『ひまわり』で『ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ』という画家が描いた絵だよ。その絵を選んだ一番の理由はね、目が見えないレナでも、この『ひまわり』の絵を見ればひまわりの黄色がすごく明るくて、まぶしくて、レナの目も見えるようになるって思ったからなんだよ！
あとね、この絵はね黄色ばかり使っているのに、一つ一つのひまわりは、全部ちがう色なんだ。レナもこの絵の中にさいているひまわりみたいに、大きく、強く生きていくんだよ。！！メリークリスマス
レナだけのサンタより。

【記憶の固執】 サルバドール・ダリ

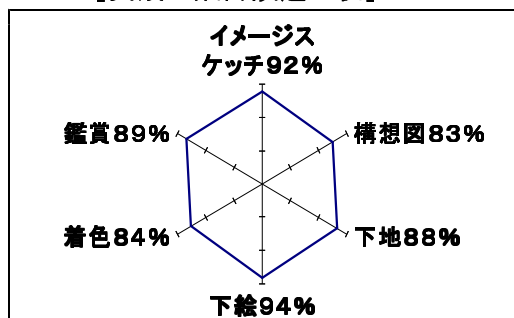
レナ！『アメリカのニューヨーク近代美術館』でこの絵を見つけたよ！題名はね、『記憶の固執』で『サルバドール・ダリ』という画家が描いた絵だよ！
この絵を選んだ理由はね、この絵には、時計がぐにやぐにやになって描かれていてとても不思議な絵だったからだだよ。その絵はね、絶対にない空間で、とてもおもしろい絵だよ。他にはね、動物が、とても気持ちよさそうに寝ていてね、この絵を見ると自分も眠くなってくるよ。他にはね、空の色が青と黄色で描かれていて、とてもきれい。あと一つ、この絵を描いたサルバドール・ダリさんの絵は、どれも独特で不思議な絵ばかりだよ。
メリークリスマス！
サンタより。



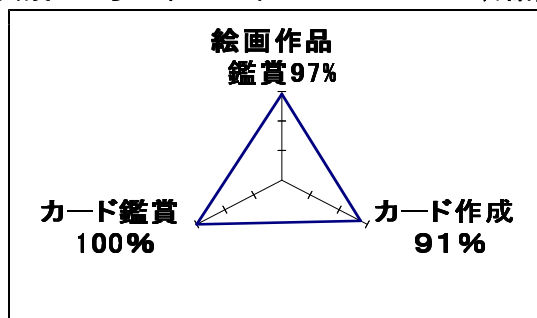
7 事後アンケートからみる研究の成果と課題

(1) クラス全体からみた分析

【実践Ⅰ 銀河鉄道の夜】



【実践Ⅱ 夢をはこぶサンタクロースの物語】



上記に示したグラフは、各時間ごとの満足度をまとめた結果である。どの過程においても約8割から9割の子どもが大満足・満足と答えている。事後意識調査・自己評価カードの分析、教師側から捉えた子どもの様子から手だてが次のように有効に働いたと言える。

① 手だて（1）『子どもの思い』をふくらめるための導入の工夫

ア 感動的な題材との出会い

- ・「これから何がはじまるのだろう。」という期待感や「早くやりたいな。」という意欲を持たせることができた。
- ・「こんな風につくりたい。」という思いをふくらめることができた。

イ 必然性を生み出す学習課題の工夫

- ・どの子も自分ごととして学習課題を受け止め、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組む姿勢を生み出すことができた。

② 手だて（2）子どもの主題（思い）を明確にし、表現及び鑑賞の見通しがもてる『学習カード』の活用

主題を明確にし、見通しがもてたり立ち返ることができたりする『学習カード』

- ・自分の主題に迫っているかどうかを確かめながら、振り返りを行うこと、常に自分の主題に照らして、どのように表現や鑑賞を進めるか確かめながら制作することができた。
- ・振り返りながら修正したり、次時の課題を明らかにしたりすることができた。

③ 手だて（3）相互啓発を図る交流の場『交流タイム』の設定による言語活動の充実『交流タイム』の実施

- ・友だちのよさや工夫を自分の表現に生かそうとする姿が見られた。
- ・友だちと比べることで、自分自身を振り返る機会となった。
- ・よいところを認め合う活動が、自他の肯定感を高めることにつながった。

④ 手だて（4）表現と鑑賞の一体化を意識した単元展開の工夫

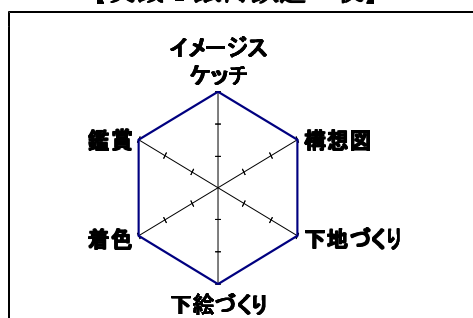
題材にストーリー性を持たせたり、子どもに自己選択させたり、相手意識をもたせたりすることにより、能動的に鑑賞する姿を生み出す。

- ・自分が選んだ絵画に愛着をもち、真剣に絵画と向き合う姿が見られた。
- ・絵画作品や色や形の美しさや作者の制作意図などを読み取り、文章にまとめることができた。

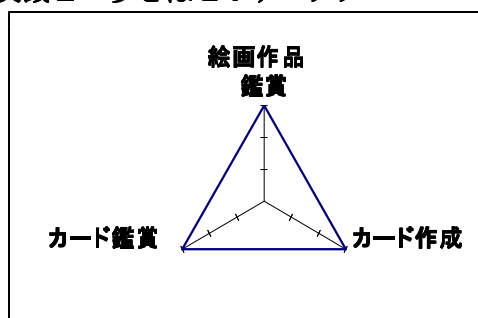
(2) 個別の聞き取りによる分析

A子さん《思いつきや、ひらめいたことを形に表すことが得意なA子さん 満足度》

【実践Ⅰ 銀河鉄道の夜】

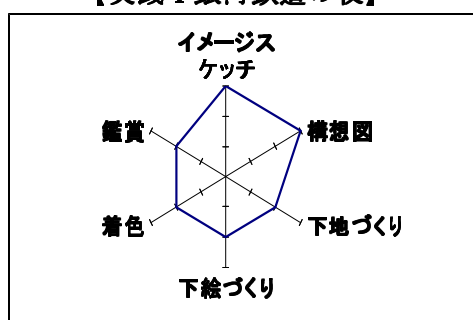


【実践Ⅱ 夢をはこぶサンタクロースの物語】

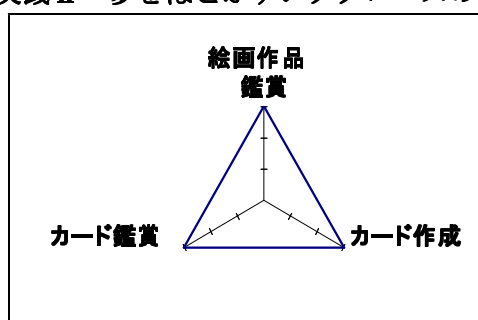


B子さん《図画工作では特にこだわりをもち、じっくり描き進めるB子さん 満足度》

【実践Ⅰ 銀河鉄道の夜】



【実践Ⅱ 夢をはこぶサンタクロースの物語】



個別に聞き取りを行ったところ、実践ⅠにおいてA子さん、B子さんの満足度は対照的であった。そこで、ここでは満足度が低かったB子さんの現れに注目してみたい。

B子さんは、実践Ⅰの下地づくりの段階から満足度が下がっている。理由を聞いてみたところ次のような答えが返ってきた。「自分の手順で描きたかった。」「白い画用紙に描きたかった。」ということであった。

段階を追って制作を進めたことや、銀河鉄道の夜の情景に合った色画用紙に絞ったことなど、よかれと思った手だてが、かえって子どもの思いを妨げることになっていた。作品のできから判断すると、大満足であろうと考えていた子どもが、実は満足していなかったことに驚き、子ども一人ひとりの思いを大切にしていく授業の難しさを感じた。

B子さんの聞き取りから、子ども自身の思いを、より深く理解することに努め、個に応じたきめ細やかな手だてを講じたり、複線型の学習過程を考えたりする必要性を痛感した。

8 研究を振り返って

以上のことから、教師が的確な子ども理解に努め、仮説や手だてを講じ、個々の子どもの思い（主題）の実現に寄り添っていくことが、子どもに『つくりだす喜び』を味わわせるために大切だということを実感した。

教師が一方的に子どもに構想や技法を押しつけたりすることは勿論のこと、反対に、手だても示さず、子ども任せにする指導でも、子ども自身がイメージや見通しをもって追求していくことは難しいと感じた。

今後も、子どもの思い（主題）を大切にしながら、『つくりだす喜び』を味わわせることができる図画工作科の授業を目指し努力し、実践を通じた継続研究に臨んでいきたい。

最後に、研究を進めるに当たり適切なお助言をいただきました先生方、研究にご支援、ご助言くださいました校長先生はじめ学校職員の皆様に、心より厚く感謝申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------|
| ○小学校学習指導要領解説 図画工作編 | 平成20年8月
文部科学省 |
| ○中学校学習指導要領解説 美術編 | 平成20年9月
文部科学省 |
| ○新しい時代をひらく教育基本構想～自律・共生・協働による新しい教育の実現～ | 平成17年3月
静岡市教育委員会 |
| ○新しい学習指導要領を読むー図画工作・美術ー | 2008年4月25日
日本文教出版(株) |
| ○学習指導要領の解説と展開 図画工作編 | 2008年8月17日
教育出版(株) |
| ○小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり 図画工作 | 平成20年11月20日
(株)東洋館出版社 |
| ○各教科等における言語活動の充実ーその方策と実践事例ー | 2008年11月1日
(株)教育開発研究所 |
| ○初等教育資料 6月号 | 平成20年6月15日
(株)東洋館出版社 |
| ○新しい教育課程と学習活動の実際 図画工作 | 1999年8月7日
(株)東洋館出版社 |
| ○新学習指導要領の指導事例集 中学校美術科「絵画・彫刻」 | 1991年11月
明治出版出版(株) |
| ○音楽・図画工作等の学習に対する児童生徒の意識調査 | 平成19年5月
国立教育政策研究所 |
-